

# 児童・生徒のネットいじめにおける“witness”の検討 (中間報告)

愛知教育大学教育学部 黒川 雅幸

## Witnesses to cyberbullying in elementary and junior high school students

Faculty of Education, Aichi University of Education, KUROKAWA, Masayuki

### 要約

文部科学省による2012年11月の報告では、ネットいじめに関しては、小学校で1,726件、中学校で2,390件報告されている。ネットいじめに関する研究は、加害者に関するものや、被害者の心理的状态や援助要請に関するもの、予防的な実践研究などが行われてきた。しかし、いじめを目撃した際の役割については十分にされてこなかった。そこで、本研究の目的は、ネットいじめにおける目撃者の役割について検討を行うことであった。第1研究では、いじめ加害者や被害者以外の立場としてネットいじめを目撃した場合に、児童・生徒がどのような行動をとるかについて明らかにした。そして、ネットいじめ目撃者のそれぞれの立場をとる子どもの基本的な特徴について検討を行った。

**【キー・ワード】** ネットいじめ, 目撃者, いじめの役割

### Abstract

In November 2012, the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology reported that the number of cyber-bullying cases was 1,726 and 2,390 at elementary school and junior high school, respectively. Cyberbullying studies have typically concentrated only on the bully and victim, and on prevention programs; few have studied those witnesses to cyberbullying. The purpose of this study was to investigate what witnesses do when a bully is harassing a victim on a web site. In study 1, participants were asked to consider what they might do when witnesses to cyberbullying. The children's psychological features were found to be related to their participant roles as witnesses to cyberbullying.

**【Key words】** cyberbullying, witnesses, participants roles

### 問題と目的

文部科学省が2012年11月に報告した「いじめの問題に関する児童生徒の実態把握並びに教育委

員会及び学校の取組状況に係る緊急調査結果」(文部科学省, 2012) では、小学校で 88,132 件、中学校で 42,751 件ものいじめが報告されている。もはや、いじめが起きることは特別なことという認識をもつのではなく、どこの学校、どこの学級でも起きうるものという認識をもって、学校でも指導に当たっていかなければならないだろう。

いじめの態様に関しては、「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。」「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。」「仲間はずれ、集団による無視をされる。」といった従来型のいじめ (traditional bullying) が多いものの (e.g., 岡安・高山, 2000)、近年では携帯電話やインターネットが子どもたちにも普及したこともあって、電子機器を使用したいじめが報告されるようになった (文部科学省, 2007; Raskauskas & Stoltz, 2007)。インターネットを介したいじめ (cyber bullying) は、ネットいじめ、サイバー型いじめ、電子いじめなどと呼ばれている。「いじめの問題に関する児童生徒の実態把握並びに教育委員会及び学校の取組状況に係る緊急調査結果」(文部科学省, 2012) では、小学校で 1,726 件、中学校で 2,390 件報告されている。ネットいじめは従来型のいじめよりも報告されている件数は少ないものの (Li, 2006)、世界の情勢をみると増加傾向にあり (Rigby, & Smith, 2011)、今後は我が国においても増加していく可能性は十分ある。従来型のいじめとともに対応や指導について検討していく必要があるだろう。

ネットいじめは従来型のいじめとは異なるところが多数みられる (Slonje, Smith, & Frisen, 2013)。加害者が匿名で加害行為を行うことができる、加害者と被害者が直接的に対面していない、加害者が被害者の反応を窺い知ることができない、学校以外でも行われる、いつでも行われる、加害者や被害者を知らない人でもいじめに加担する場合もある、被害者に関する誹謗・中傷がネット上に半永久的に残ってしまう、などが挙げられる。

一方で、ネットいじめは、従来型のいじめと共通するところもある。加害者に関しては、従来型のいじめもネットいじめも比較的重複していることが示されている (黒川, 2010a; Smith, Mahdavi, Carvalho, Fisher, Russell, & Tippett, 2008)。また、誹謗・中傷の書き込みや、携帯電話やスマートフォンで悪質な写真を撮るなどの直接的ないじめや、仲間のネットワークから外してしまうといった間接的ないじめの両方が存在する (三島・黒川・大西・本庄・吉武・長谷川・長谷川・吉田, 2010)。

ネットいじめにおける研究は、加害者に関する研究 (内海, 2010) や、被害者の心理的状态に関する研究 (黒川, 2010b; Sontag, Clemans, Graber, & Lyndon, 2011)、被害者の援助要請に関する研究 (藤・吉田, 2014)、などが行われてきた。しかし、いじめは集団で起きる現象であり、加害者、被害者だけではなく、それをとりまく観衆、傍観者が存在することが指摘されている (森田・清永, 1986)。森田・清永 (1986) はこれを「いじめの 4 層構造」とよんでいる。海外においても、いじめに関わる者について Salmivalli, Lagerspetz, Bjorkqvist, Osterman, & Kaukiainen (1996) がいじめ加害者 (bully)、被害者 (victim)、加害援助者 (assistant)、観衆 (reinforcer)、被害擁護者 (defender)、無関係者 (outsider) の役割を指摘している。加害援助者とは、自分が率先して加害者になるほどではないにしても、加害者を補助的に助けていじめを行ってしまう者である。観衆は笑うなどして、いじめをはやしたてる役割にいる者である。傍観者とは、いじめが行われていることを知りつつも、被害者を助けるわけでも、加害者に加わるわけでもなく、ただ眺めているだけの立場である。被害擁護

者は、いじめが行われているのをやめさせようと介入する立場の者である。無関係者は、いじめには関与しておらず、何もしない者のことである。

近年では、ネットいじめ加害者や被害者のみならず、ネットいじめに関わる周辺的な立場になる生徒の検討も行われつつある。Slonje, Smith, & Frisen (2012) では、ネットいじめにおけるいじめの構造について検討している。この研究では、加害者がネット上に書いた情報を被害者以外の人物が目撃した時に、72%が何も行動しないのに対し、9%がそれを他の友だちに送ると回答し、6%がターゲットとなっている被害者に加害目的で送ると回答された。また、13%が被害者を助けるために被害者へ送ると回答された。

しかし、ネットいじめに関しては、これらの加害者、被害者以外の“witness (=目撃者)”について、未だ十分な検討がなされていない。ネットいじめでは、ネット上に書きこまれた誹謗・中傷をターゲットとされた被害者以外の人が目撃し、目撃者がターゲットとされた人物に伝えるような場合もある。目撃者の行動がターゲットとされた子どもに心理的なダメージを与えることにもなりかねない。また、目撃者がターゲットとされた子ども以外に伝えたことが、観衆としての役割を果たしてしまう恐れもある。このようにネットいじめにおける目撃者は被害者を擁護するうえでも重要な立場にあり、検討を行う必要がある。そこで、本研究では、ネットいじめにおける目撃者の役割について、加害援助者、観衆、傍観者、被害擁護者について検討を行う。

第1研究として、1) いじめ加害者や被害者以外の立場としてネットいじめを目撃した場合に、児童・生徒がとる行動について明らかにし、2) 加害援助者、観衆、傍観者、被害擁護者のそれぞれの立場をとる子どもの基本的な特徴について明らかにする。第2研究として、傍観者、観衆、加害援助者、被害擁護者の各立場をとる児童・生徒の情報モラルに対する意識や規範行動の違いについて検討する。

## 進捗状況と今後の展開

小学5・6年生107名、中学1・2年生531名を対象に質問紙調査を実施し、分析を行っているところである。今後は第1研究の結果をまとめるとともに、第2研究の調査を実施する。

## 引用文献

- 藤桂・吉田富二雄 (2014). ネットいじめ被害者における相談行動の抑制—脅威認知の観点から— 教育心理学研究, **62**, 50-63.
- 黒川雅幸 (2010a). 中学生の電子いじめ加害行動に関する研究 福岡教育大学紀要第4分冊(教職科編), **59**, 11-21.
- 黒川雅幸 (2010b). いじめ被害とストレス反応, 仲間関係, 学校適応感との関連—電子いじめ被害も含めた検討— カウンセリング研究, **43**, 171-181.
- Li, Q. (2006). Cyberbullying in schools: A research of gender differences. *School Psychology International*, **27**, 157-170.

- 三島浩路・黒川雅幸・大西彩子・本庄勝・吉武久美・長谷川輝之・長谷川亨・吉田俊和 (2010). ネット上のトラブルや「いじめ」に関する報告—中学・高校生当時の体験を回想して— 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(心理発達科学), **57**, 61-69.
- 文部科学省 (2007). 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査 文部科学省 2007 年 11 月 15 日 <[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/19/11/07110710/001/002.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/19/11/07110710/001/002.pdf)> (2008 年 1 月 8 日)
- 文部科学省 (2012). 「いじめの問題に関する児童生徒の実態把握並びに教育委員会及び学校の取組状況に係る緊急調査」結果について 2012 年 11 月 22 日  
<[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/24/11/\\_icsFiles/afiedfile/2012/12/09/1328532\\_02\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/11/_icsFiles/afiedfile/2012/12/09/1328532_02_1.pdf)> (2014 年 9 月 27 日)
- 森田洋司・清永賢二 (1986). いじめ—教室の病— 金子書房
- 岡安孝弘・高山巖 (2000). 中学生におけるいじめ被害者および加害者の心理的ストレス 教育心理学研究, **48**, 410-421.
- Raskauskas, J. & Stoltz, A. D. (2007). Involvement in traditional and electronic bullying among adolescents. *Developmental Psychology*, **43**, 564-575.
- Rigby, K. & Smith, P. K. (2011). Is school bullying really on the rise? *Social Psychology Education*, **14**, 441-455.
- Salmivalli, C., Lagerspetz, K., Björkqvist, K., Österman, K., & Kaukiainen, A. (1996). Bullying as a group process: Participant roles and their relations to social status within the group. *Aggressive Behavior*, **22**, 1-15.
- Slonje, R., Smith, P. K., & Frisé, A. (2012). Processes of cyberbullying, and feelings of remorse by bullies: A pilot study. *European Journal of Developmental Psychology*, **9**, 244-259.
- Slonje, R., Smith, P. K., & Frisé, A. (2013). The nature of cyberbullying, and strategies for prevention. *Computers in Human Behavior*, **29**, 26-32.
- Smith, P. K., Mahdavi, J., Carvalho, M., Fisher, S., Russell, S., & Tippett, N. (2008). Cyberbullying: Its nature and impact in secondary school pupils. *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, **49**, 376-385.
- Sontag, L. M., Clemons, K. H., Graber, J. A., & Lyndon, S. T. (2011). Traditional and cyber aggressors and victims: A comparison of psychosocial characteristics. *Journal of Youth and Adolescence*, **40**, 392-404.
- 内海しよか (2010). 中学生のネットいじめ, いじめられ体験—親の統制に対する子どもの認知, および関係性攻撃との関連— 教育心理学研究, **58**, 12-22.